分かち合う世界へ ㊶

「変異型」拡大 我慢の時

アジア自立支援機構代表理事
小沼 廣幸

桜が満開したと3月半ばすぎに日本から便りがあった。いつもよりだいぶ早いようだ。ここタイでも、例年だと3月の後半から4月初旬に出荷の最盛期を迎えるマンゴーが、3月半ばには市場にあふれていた。それも値崩れしたかのように安い。大きな質の良いマンゴーが1キロ(約2個)で35バーツ(約120円)ほどだから1個60円くらいだ。少し小さい中型になると1キロ20～25バーツくらいに値段が下がる。

新型コロナウイルスの影響で、観光客やホテルでの需要が激減したため、市場にマンゴーがあふれているのだそうだ。日本のマンゴー好きの人たちには、とてもぜいたくに聞こえるだろう。

4月半ばにはタイ暦の正月であるソンクラーン(水掛け祭りともいわれている)を迎え、タイ中がお祭りに興じる季節になる。しかし、これも昔の話になった。というのも、新型ウイルスの影響でソンクラーン休みそのものが中止になった昨年に続き、今年は正月の厳かな伝統行事は許可されているものの、若者が中心になって大騒ぎする水掛け行事は中止するよう厳重な政府令が出たのだ。

タイ歴の正月が過ぎると本格的な雨期に入る。

この頃に、いつも新聞をにぎわすのが、下町の大洪水だ。もともと海抜の低いデルタ地帯や湿地を埋め立てたバンコクの住宅地の多くは、水はけが悪く下水道の設備も悪い。豪雨に見舞われると短時間でもあちらこちらで道路や住宅の冠水が起こる。「見た目だけで家を買ってはいけない。家や土地を買うなら雨期に選べ」というのがタイ人の間で格言のように言われている。

アマゾン地域が発生源といわれるブラジル型の変異ウイルスが一部でまん延している、とのニュースを耳にした。最近のWHOの報告によると新たな新型ウイルス感染者の約半数はブラジル型だという。感染力が従来の3倍近くある(ブラジル保健相)という報告もあり、若い世代に感染が拡大し、抗体をすり抜ける危険があるというから特段の警戒が必要だ。この強力なブラジル型が国内にまん延するのは今後1、2カ月の時間の問題だろう、と指摘する専門家もいる。そうなればオリンピックどころではなくなるかもしれない。

ただ何はともあれ、もう一息、変異ウイルスにも効くワクチン接種が進み、治療薬ができてくれば新型ウイルスは徐々に収束する。あと1年なのか2年なのか、先がだんだん見えてきたのは事実だ。

今必要なのはみんなで耐えて、耐えて、我慢することだ。ぜいたく病に飼いならされたわれわれにとっては、大きな試練かもしれない。もしかしたら自分が他人に感染させてしまうかもしれないと思い、家族やかけがえのない友人たちを守るために責任のある行動をとることが、われわれ一人一人に求められている。

筆者の自宅に近い、マンゴーであふれる生鮮果物市場＝3月25日、タイ・バンコク

「分かち合う世界へ」は、ホームページ「新潟日報モア」の「オピニオン・視点アジア」でも読むことができます。

こぬま・ひろゆき　1953年、東京都生まれ。明治大卒。筑波大大学院博士課程前期修了。博士(農学)。元国連食糧農業機関(FAO)事務局長補兼アジア太平洋局長。2017年にタイ王冠勲章を受章。18年、一般社団法人(非営利)アジア自立支援機構を設立。両親、妻は本県出身。茨城県、バンコク在住。